

2023 年度 総合型選抜 A0 入試（第 1 次選考）小論文

【理工学部 住環境デザイン学科】

受験番号								氏名	
				-					

地球温暖化の進行により私たちの生活や自然の生態系にも様々な影響が及んでいることを背景に、2015 年 9 月、国連総会で SDGs（持続可能な開発目標）が採択された。SDGs は、人類がこの地球で安定して暮らし続けていくための国際目標であり、まちや住まいについても「目標 11. 包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する」が定められている。

上記を踏まえて次の文章を読み、「持続可能な住環境をデザインする上で重要なことは何か、そして将来住環境デザインに携わろうとする大学生が大学在学時に磨くべき力」について、あなたの考えを 600 字以内で述べなさい。

装うこと、優れた造形を追い求めること。それがただの虚飾や自己顕示ではなく、社会を変えるアクションだと教えてくれたのが、5 日に亡くなった三宅一生さんだった。SDGs（持続可能な開発目標）などという言葉がはやるずっと前から文明の行く末を見ていた。

▼1970 年代に提唱した「一枚の布」は、文字通り 1 枚の布を体にまとうだけというコンセプトだった。美しいのはもちろん、裁断によって廃棄される生地を生まない。衣服ロスをはじめファッション業界の環境負荷がとりざたされる昨今、半世紀も前に発想したというその先見性に驚く。デザインの根底に哲学があった。

▼だからこそ、世界から人気と尊敬を集めた。東京にデザイン専門のミュージアムを設立した際、本紙のインタビューで語っていた。「我々デザイナーには物事をポジティブに考える、という特殊な才能があります。アーティストが時に死を表現するのに対し、デザイナーはどんな時も『生かす』ことから発想する人間です」

▼至言である。なにより広島の爆心地で地獄の猛火を生き抜いた三宅さんにとって「生かす」と「生きる」ことは、他のデザイナーとは比較にならないほど重い意味を持っていたに違いない。くしくも 77 回目の原爆忌の前日に逝った。残されたデザインが放つメッセージは、時代が移ろっても不変の輝きを放つのだろう。